

TSUGARU ウルシ

青森県立五所川原農林高等学校 森林科学科

○対馬健太

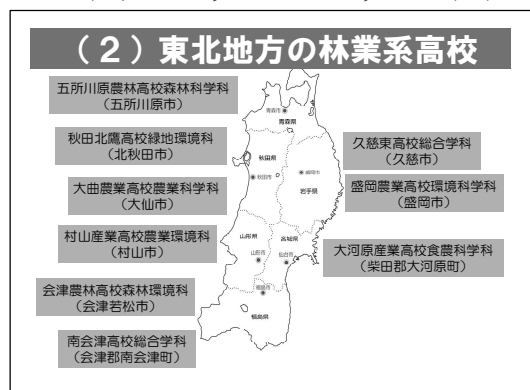
杉田 旭

1 はじめに



本校は、明治35年に創立した、今年で121周年を迎える農業高校です。青森県の西に位置する五所川原市にあり、五所川立佞武多や太宰治の斜陽館、十三湖が観光地として有名です。現在は、生物生産科、森林科学科、環境土木科、食品科学科の4つの科があり、約300名の生徒が学んでいます。森林科学科は、昭和9年に林業科として設置され、平成22年に学科改編により現在に至っています。平成30年には、世界で

初めて高校生が森林の国際認証であるFSC認証を取得し、令和元年には東京オリンピック・パラリンピックのビレッジプラザの一部に本校演習林からの木材が使用されています。

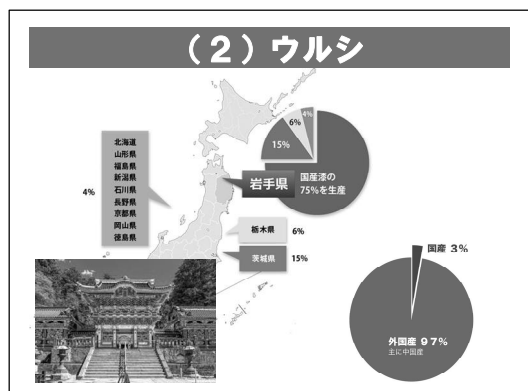


ここで、東北地方の林業を学ぶ高校を紹介します。現在、9校ありますが、その中で森林と科名にあるのは、会津農林高校と本校だけです。しかし、2027年には閉科となり、環境土木科と一緒に環境科学科として林業を学ぶことが決まっています。

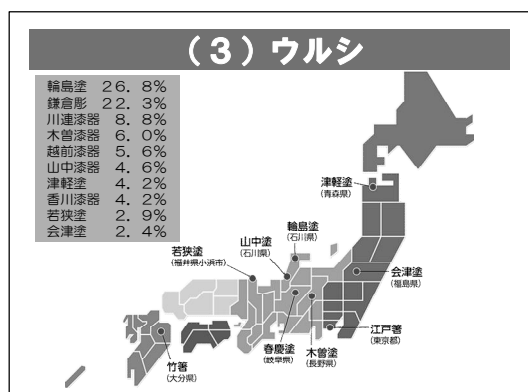
2 取組・研究発表



本校の森林科学科では、令和3年から青森県中南地域県民局のご指導のもと、ウルシの植栽事業に参加し、これまでに5回の植栽活動をしてきました。ウルシについて調べてみると、令和3年度のウルシの国内生産量は約9%と低く、残りの90%が中国からの輸入に頼っていることに大きな衝撃を受けました。ウルシは、国宝や重要文化財の補修に国産ウルシが使われることになっており、



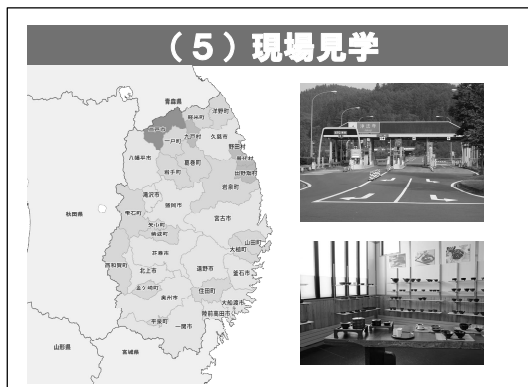
とされています。今年のように春先から気温が高いと、苗木をすぐに入手できない場合もあるので、注意が必要です。



このウルシですが、実は、青森県弘前市を中心にした津軽地方の津軽塗が有名で、青森県を代表する伝統的工芸品です。古くは、津軽藩四代藩主の津軽信政が津軽の産業育成に全国から多くの職人を招いたのが今日に至っているそうです。その生産量は、輪島塗や鎌倉彫などには遠く及びませんが、7位の生産量を誇っています。



植栽には、令和3年に現在の3年生33名が、令和4年は、卒業した3年生35名と、現在の3年生33名と2年生14名が実施しました。令和5年は、私たち1年生12名と、現在の2年生14名で植栽してきました。令和4年までは春に実施していましたが、令和5年は3月からの高温が植栽時期に適さないと判断され、10月に予定を延期しましたが、10月も例年になく暑かったことから再度延期となりました。



するばかりで、あっという間に、一つの区域が終了してしまいました。

(6) 現場見学



その後、浄法寺に支店がある株式会社小西美術工芸社を見学しました。小西美術工芸社は、旧小学校をお借りしてウルシ生産をしているだけではなく、国宝や重要文化財の修復も手がけている企業で、以前は日光東照宮の修復もしたことがあるそうです。教室内で見ていただいた樽の中には精製したウルシがびっしりとあり、まるで生きているかのようでした。その後、浄法寺インター近くのウルシ製品販売店の「滴生舎」にお邪魔しまし

た。そこでは、ウルシ製品の実演販売をしていましたが、それよりも、漆製品の値段の高さに驚きました。よほどリッチな高校生でなければ、購入は無理だと思います。

(7) 今年の植栽



延び延びになっていた植栽は11月13日に実施することになりました。この日はとても寒く、しかも、小雪が舞う中での植栽となりました。こんな日に植栽していいのだろうかという不安がつきまといましたが、先生たちはやる気満々でした。植栽する現場は3カ所あり、初めの場所で説明を受けて植栽開始です。2カ所目では吹雪模様の中での植栽となりましたが、3カ所目の植栽も無地に終え、予定通りに380本を植栽しました。

(8) 課題発見



この植栽活動を通して、一つの課題が見つかりました。それは、ウルシを掻いた後のウルシの木の有効活用です。ウルシの木は、伐倒後、そのまま放置されていることから、材として活用することはできないものかと考えています。

(9) 3Dターニングマシン



チップソー+ホルソー=木工旋盤

そこで、昨年からは森林科学科では3Dターニングマシンを導入して、機械によるいろいろな木工品を製作してきました。その中でも、ヒバ材を利用した「枡」を商品化したいと取り組んでいますが、これをウルシ材でも挑戦してみたいと現在考えております。

(10) ウルシ材の製材



12月に五所川原市金木町にある「有限会社なかにし」さんをお願いして、ウルシの材を製材してもらうことにしました。浄法寺の小西美術工芸社から購入したウルシ材3本から、柀用の材料となる角材が6本とることができました。この角材を3Dターニングマシーンに掛けて柀を作ろうというのです。この機械は、丸鋸と電動ドリルを組み合わせた簡単な機械ですが、1400万円したそうです。丸鋸で外観を削り、電動ドリルで掘削し

ていきます。ヒバ材で作った柀に水を入れたところ、漏水することが分かりました。現在、この漏水を止める方法を模索しています。

3 まとめ

(1) まとめ

- ①国産ウルシの生産量は10%以下
- ②ウルシの植栽で農地の有効活用
- ③植林の難易度は高くない
- ④国産うるしの増産に一役
- ⑤本県は津軽塗の産地！

以上、これらの取り組みをまとめてみますと、①国産ウルシの生産量は10%以下で、そのほとんどが中国産である。②ウルシの植栽地には元果樹園の放棄地が利用されており、農地の有効利用につながっている。③植林は難しいものではなく、思っていた以上に簡単である。④国産ウルシの増産につながり、国宝や重要文化財の修復等に使用されている。⑤本県は、津軽塗の産地として有名である。

4 今後の課題

(1) 今後の課題

- ①ウルシの学習
- ②ウルシ材の有効活用
- ③県産ウルシの増産に一役
- ④環境保全に取り組む
- ⑤廃材で加工品を製作販売し、廃材を購入する(資源循環型製造)



今後の課題として、①ウルシに対する知識不足の改善。②ウルシ材の有効利用方法を模索する。③県産ウルシの増産に役立つとともに、今後も率先して植栽活動に参加する。④環境保全に意欲的に取り組むなどが挙げられます。

私たちのウルシの取り組みはまだまだこれからですが、大好きな青森県のために、活動することを誓い発表を終わります。